

GSI Maps



第3弾「タイムスリップをして金澤の歴史を歩いてみよう！」

～金澤むかしばなし～

① 権現山記念公園



金沢の代官である八木次郎右衛門によって、万治年間（1658～1661）に東照宮が創建され、同じころ東照宮を管理する別当寺として円通寺も建てられたと推定されています。

その後、江戸時代後期の 1802 年に東照宮を詣でる人をもてなすため、境内に円通寺客殿が建築されました。慶応 4（1868）年、神仏分離令により円通寺が廃寺となってからは、円通寺の最後の僧侶であった木村芳臣氏が還俗（げんぞく・一度出家した者がもとの俗人に戻ること）し、客殿を住居として使用しました。

その後も木村家に住み継がれ、平成 9（1997）年に「旧円通寺客殿（木村家住宅主屋）」として横浜市認定歴史的建造物に認定され、平成 28（2016）年に特定景観形成歴史的建造物に指定されました。草創当時より、大きな間取り変更や増築はほとんど行われず、江戸時代の客殿としての造りが保存されている貴重な建物です。

平成 31（2019）年から復元工事が行われ、令和 4（2022）年 4 月 1 日に金沢八景権現山公園の開園と同時に、一般公開されました。

② 瀬戸神社



治承4年（1180年）源頼朝が鎌倉の鬼門除けの為、伊豆三島明神を勧請し建立した。（頼朝は同時に富岡八幡宮、朝比奈の熊野神社を建立）瀬戸神社には、鎌倉時代から伝わる多数の文化財が保存されています。なかでも源実朝が使用し、母の北条政子が奉納したといわれる舞楽面二面（抜頭面と陵王面）が平成 12 年国の重要文化財に指定されたことが特筆されます。神像7体があり内5体は 2002 年大英博物館に展示された。

境内には、東照宮から移設された石灯籠一対、謡曲「放下僧」（街角で芸をしながら仏法を解く僧）の仇討ちの現場が当神社の境内であったとの解説板、延宝 8 年（1680 年）の大暴風で倒れた蛇柏槇（じゃびやくしん）などがあります。

○鬼熊の力石（85貫）。日米和親条約締結時に日米の贈り物交換があり

仇討ち日本から食料品などを力士が運んだ。力士の一人。

○明治 11 年東照宮から移設された「米倉康則」=のちの米倉藩主と「久世博之」

=のちの老中の石灯籠がある。

○樹齢740年の『かや』の木。

倒木の蛇混槇 倒木後340年 現在まで腐らずに残っており一部、社殿にも使用。

○波蝕台：瀬戸神社の山際に残る縄文時代～中世に至る時代の海岸線の跡

③ 琵琶島神社



治承4年、源頼朝が三島明神を勧請して瀬戸神社を創建した時に、夫人の北条政子が夫にならって、日頃信仰する琵琶湖の竹生島弁財天を勧請して、瀬戸神社の海中に島を築いて創建したと伝えられています。祭神は立ち姿なので「立身弁財天」、また、島の形が琵琶に似ているので「琵琶島弁財天」とも呼ばれています。参道入口の右側に金沢四石の一つ「福石」があります。もともと左側の海中にあったものが、昭和41年の国道16号線拡幅工事の際に現在地へ移設されました。源頼朝が瀬戸神

社参拝のため、平潟湾で禊(みそぎ)をした時に衣服を掛けた石なので「呉服石」とも、「福石」とも呼ばれたと伝えられています。また、境内には佐羽淡齋(さばたんさい)の詩碑「総宜楼(そうぎろう)の詩碑」があります。文化5年(1808)、隣接の料亭東屋(あずまや)の庭に置かれていたものが、復元され移されたものです。この地に遊んだ際の楽しい友人との宴会の様子や瀬戸の風景が詩に詠まれています。広重の版画「金沢八景」の一景である「瀬戸の秋月」は、この辺の夜景の美しさを描いたものです。

創建: 治承4年(1180) 祭

神: 市杵島姫命(いちきしまひめのみこと)

④ 姫小島水門跡



金沢地区の干拓事業をすすめてきた永島家六代目段右衛門が、金沢入江新田開発のため造ったものといわれています。この新田開発は干潟(ひがた)を埋め立てて行ったため、満ち潮のとき、海水の流入をどのようにして防ぐかという問題が発生しました。この問題を解決したのがこの水門です。門扉が海側にのみ開閉することにより、潮が満ちれば水門が閉じ、干潮のときには開いて宮川の水が流れ出るようになっていました。姫小島の名前は「照手姫と小栗判官」伝承によると、照手姫が、この島で松

葉いぶしの難に遭ったと云うことで、この土地の人が哀れみ「姫小島」と呼ぶようになったそうです。

完成: 天明5年(1785) 復元: 平成5年(1993)

○泥亀新田: 江戸の儒学者であった永島祐伯が、1668年から新田開発を始め、以後永島家は九代200年にわたり行った。代官、江川太郎左衛門が祐伯の号「泥亀」に因んで「泥亀新田」と名付けた。この新田では稲作に適さなかったので塩田を造り製塩により成功した。しかし明治43年政府が製塩地整理法を施行し、金沢の製塩は禁止され永島家は打撃を受け、大正5年博文館社長大橋慎太郎に売却した。

○宝永4年(1707年)酒井雅楽守(うたのかみ)が永島氏に牡丹を贈った。

⑤ 瀬戸橋



セトとは狭い門「ト」を意味する古い言葉です。

江戸時代中期までは瀬戸橋より北側の文庫駅や手子神社あたりまで内海が広がっていました。瀬戸橋あたりの狭くなった所は潮の流れが速く、小舟で渡るのも難儀でした。鎌倉幕府は六浦の港を重視し、臨時の税金を徴収して瀬戸に橋をかけました。そのお陰で、町屋・寺前などが発展しました。広重の江戸名所図絵には、瀬戸橋あたりの賑わいが描かれています。

○1305年に日本最初のベイブリッジが完成。

⑥ 「憲法草創の處」の碑



明治20年(1887)、伊藤博文を中心に、井上毅、伊東巳代治、金子堅太郎の4名とロエスレル(明治時代、在ドイツ全権公使)が、この東屋で明治憲法の草案づくりをしていました。ある日、その草案原稿の入った鞆の盗難事件が起こり、それを機会に、その後は夏島にある伊藤博文の別荘で草案づくりは続けられ、明治22年憲法発布となった。この碑は昭和10年に東屋の庭に。東屋が廃業後、野島の伊藤の別荘に。昭和62年現在地に。

○ 洲崎神社

応長元年(1311年)の大津波で壊滅した長浜の住人がこの地に移り第六天(他化自在天)＝説教節の題材＝を祀った。明治の神仏分離により、ご神体は龍華寺に安置。夏祭りの時だけ洲崎神社に。

○ここには90cm四方の獅子頭がある。(安房生まれの後藤利兵衛の作)

○洲崎神社の右に天王社あり。近くに天王河岸(外海)。

⑦ 龍華寺



知足山(ちそくざん) 龍華寺(りゅうげじ) (真言宗御室派)

源頼朝が瀬戸神社を建立した後、文覚上人と共に瀬戸神社の別当寺として六浦山中に建てた「浄願寺(じょうがんじ)」が始まりといわれています。その後、戦乱や火災で浄願寺の伽藍が荒廃したため、明応8年(1499年)融弁(ゆうべん)上人が、兼務していた光徳寺と合併し、当地に移築、龍華寺となりました。

800年以上の歴史を持つお寺だけに、貴重な宝物が所蔵されています。旧本尊「弥勒菩薩坐像」(室町時代)の

ほか、「脱活乾漆造菩薩坐像(だっかつかんしつづくり)」(天平時代)東海地方以東、平成10年に初めて発見されました。「木造阿弥陀如来坐像」(平安時代)、「地藏菩薩坐像」「木造龍頭」(室町時代)などが、横浜市指定文化財となっています。また、牡丹などの花の寺としても知られます。

本尊:大日如来(だいにちにょらい) 開山:文覚上人(もんがくしょうにん) 創建:文治年中 開基:源頼朝

○梵鐘:天文10年(1541)の銘がありますが、鎌倉時代後期の作ではないかと思われます。

○永島家一族の墓:金沢で新田開発に尽力した歴代の墓があります。

○地藏堂とまわり地藏:山門横の立派な建物は地藏堂で、中には約500年前、地元洲崎の村人の浄財によって造られた、高さ76センチメートルの寄せ木造りの地藏菩薩座像と、約150年前、海岸に打ち上げられていた、身の丈17センチメートルの「まわり地藏」が祀られています。この小さな地藏はかつては厨子に入れられ、3日ごとに村の家々を回って拝まれていたそうです。

○家康が参詣した際、龍華寺を『立源寺』と聞き縁起が良いと喜んだ。以後、地元の人々は『りゅうげんじ』と言い、最近まで古老はこれを通した。

○大橋須磨子の寄進による関東大震災犠牲者の慰霊塔。

○太田道灌寄進の不動明王。

○本山は京都、御室(おむろ)、仁和寺(にんなじ)です。

○ 安立寺



日蓮上人が下総から鎌倉に渡るとき、下総中山の城主の富木常忍公(ときつねのぶこう)(後の中山法華経寺開山: 日常上人)と船中で問答を行い、船がこの金沢に着くと修験行者悟明(ごみょう)の庵に來られました。悟明はこの問答を聞いて、日蓮聖人に帰依、「安立院日悟」となり、この寺を開きました。

この寺には日蓮上人を彫刻し日蓮上人自身が開眼した『感応の祖師』像がある。

○樹齢 420 年のクロマツあり。

⑧ 金澤八幡神社(寺前八幡神社)

金澤八幡神社(かなざわはちまんじんじゃ)

主祭神: 応神天皇(おうじんてんのう)



寺前八幡神社と呼ばれ親しまれて、江戸時代までは、八幡報恩寺(はちまんほうおんじ)という別当寺も神社の北側にありましたが、廃寺となって、神社の記録も残っていません。

金沢文庫の古文書に 700 年前の称名寺造営の運ぶ舟が八幡河岸(がし)に陸揚げした、とあることから、鎌倉時代に存在していたことがわかります。

明治 41 年に近くの小社が合祀(ごうし)したので主祭神の外三社の祭神も祀られています。

ここの八幡神社は霊驗あらたかと、熱心な信者が参詣します。

道の分岐点にある神社で、毎年開かれる夏祭りは大変なにぎわいをみせる。

※瀬戸の入海には、八幡河岸、君ヶ崎の河岸、小泉の河岸があった。

⑨ 薬王寺

三療山医王院(さんりょうさんいおういん) 薬王寺(やくおうじ)(真言宗御室派)

本尊: 薬師如来(やくしにょらい)

創建: 鎌倉時代前期



鎌倉幕府を開いた源頼朝の弟・美川守源範頼は、伊豆修繕寺にて梶原景時に攻められ自刃しました。

源範頼公の別邸の地、瀬が崎に公の霊を弔うために建立された真言宗の寺で、三^{さん}愈^ゆ山^{さん}愈^ゆ遍^{へん}照^{しょう}坊^{ぼう}と称し、その後衰えましたが再建され、江戸時代に三^{さん}療^{りょう}山^{やま}薬^{やく}王^{おう}寺と改名し現在にいたります。

本尊の薬師如来は、源範頼公の念持仏といわれています。

鎌倉時代末期の聖観音菩薩像、金剛界・(こんごうかい)胎蔵界曼陀羅(たいざうかいまんだら)等の昔からの法具が伝わっています。

源範頼公の位牌を奉り、毎年8月24日の命日には「三河忌^{みかわき}」として追善供養を行っています。

朝晩の6時に鐘を搗き、時を知らせています。

○源範頼が伊豆修善寺で殺されたことになっているが、修善寺を脱出し舟で浦郷鉦切(なたぎり)に到着、追浜を通り瀬ヶ崎へ、その後、範頼が瀬ヶ崎に創建した薬師寺(現在の関東学院六浦)にある持仏堂で自決したという説がある。その後、薬王寺として現在地に移る。

○瀬ヶ崎の跡地に範頼の戒名を使った太寧寺が建立されたが戦時中、片吹に疎開させられた。

○道灌畑

稱名寺の墓の一部。薬王寺の奥にあり。このことから金沢の山や六浦の山が道灌の和歌の場所という説あり。「七重八重花は咲けども山吹の実の一つだになきぞ悲しき」

○長浜観音

1311年の大地震で長浜の海に沈んだ観音様を赤門の隣に祀った→今は稱名寺の本堂にある。

㊦ 称名寺

金沢山(きんたくさん) 称名寺 (真言律宗) 金沢北条氏一門の菩提寺。



1258年、鎌倉幕府の要人・北条実時が母親の7回忌に六浦荘金沢の屋敷内に建てた持仏堂からの発展が起源とされます(浄土宗)。実時の孫・貞顕の時代には三重の塔を含む七堂伽藍を完備した大寺院として全盛期を迎えました。

1267年西大寺叡尊に感銘。下野薬師寺の審海をスカウト、真言律宗に。孫の貞顕の時、七堂伽藍が完成。鎌倉幕府の祈願所に。室町時代鎌倉府の祈願所に(足利持氏が古河に移るまで)

○赤門<惣門> 鎌倉時代制作と推定。1770年焼失 翌年再建。

○子院は、光明院、阿弥陀院、大宝院、一の室、海岸寺だったが現在は光明院、大宝院のみ存在。

・光明院 表門四脚門 横浜で最古の建造物

大威徳明王像(だいいとくめいぞう) 運慶作

・大宝院 明治時代伊藤博文などにより金沢文庫を再興したが関東大震災にて崩壊。

○参道の敷石は横浜の市電が廃止された時ここに。

○仁王門

・仁王様(約4m)がいることから仁王門

・口を開いた阿形像と口を閉じた吽形像がおり阿吽の呼吸で仏さまやそこに来る人々を守る。阿形は魔物が入ってこないようにし吽形は、信仰心のない人を弾き飛ばす役割。

・鳳凰、龍、獅子=文殊菩薩、象=普賢菩薩

・左上に初夢を食べる『猿』があるが日光東照宮にもあり、鉄を食べる=武器を食べる=戦がないことの願望を表しています。

・1818再建。仁王様に比べ高さが低い、幕府の許可がでなかった。

※上行寺の坊さんが稱名寺の坊さんと囲碁の勝負をして勝って、仁王さんを担いで身延山まで行った。日荷上人の名をもらって帰ってきた。

○浄土庭園

・阿字ガ池 梵字の阿に似ているから。

・仁王門→ 此岸 → 反橋(過去)山あり谷ありの人生 → 中の島(現在)→ 平橋(未来)極楽浄土に向か
っておだやかに → 彼岸 本堂

○鐘楼 實時の時作った鐘が破損し、1301年顕時が改鑄、物部国光・依光の作。
基礎部は文化2年石橋氏により改築。関東大震災後大橋氏夫人により再建された。
石橋氏は江戸の商人で稱名寺担当。仁王門の建築にも協力した。

○青葉の楓

本堂前の楓 冷泉為相がここに詣でた際この楓のみ色づいていた。
『いかにして此の一本の時雨けん山に先立つ庭のもみじ葉』と歌ったところ
楓が、こんなに和歌にまでうたって貰った。これからは青葉のままでいよう
と、以後色づかなかった。

○美女石と姥石 (金沢四石のふたつ)

御姫様が足を滑らせ池に落ちてしまった。姥が助けに行ったが二人とも
助からず、滑って落ちたところに石が出てきた。

○三重の塔 明治時代に浮浪者の焚火により焼失。

○楷樹(楷の木)

大正初期に日本に入ってきた木。牧野富太郎博士が孔子に関係のある所に多いので孔子木(和名)と名
付けた。この木は昭和十四年十一月八日に植えられたもので、植物学上うるし科に属し、和名を「トネリバ
ハゼノキランシンボク」、一般には楷(かい)の木とよばれている。しかし世界的な植物学者牧野富太郎氏
によって新たに孔子木と名づけられた。中国と台湾に多く産するが、日本ではほとんど見る事ができない。
わずかに孔子信仰と関係ある東京湯島の聖廟、足利市の足利学校などに植樹されている。梅檀(せんだ
ん)や黄櫨(こうろ)の木に似ているが、それより品良い葉形をしており、若葉の頃がもっとも美しい。

○實時の墓 金沢三山の稲荷山にある。

○顕時・貞顕の五輪塔あり。

○金沢文庫 1275年 北条實時が建てた武家文庫

※鎌倉は火災が多かった。實時の鎌倉の屋敷も二度焼け、せっかくの蔵書も灰になった。以後、書物は金
沢におくことにし、文庫の建物もつくった。文庫としての活動は實時の子や孫にも相続された。

すでにふれたように、實時は火を怖れた。このため稱名寺がたとえ焼けても火が金沢文庫に及ばないよう
に、文庫の所在地は小山一つをへだてさせている。しかも小山に隧道をくりぬいて、双方の利便をはか
った。…………… この仕掛けの妙は、横浜に住むほどの人なら、一度は味わったほうがいい。

司馬遼太郎『街道をゆく』42 三浦半島記 より

△石橋弥太郎 浅草の米問屋で稱名寺を扱っていた。米問屋のリーダーで仁王門の建築等において稱名寺を
たすけた。

△大橋新太郎 新潟・長岡出身

・博文館社長

・渋沢栄一に認められ多くの会社役員をこなす。

・王子製紙、日本郵船、日本硝子など

金色夜叉のモデル ※富山(金貸し)

お宮 大橋須磨子 妻

寛一 巖谷小波 児童文学

昭和5年の金沢文庫設立の際、費用の半額を負担。

金沢文庫の百観音、八角堂設立、北条顕時、金沢貞顕の五輪の塔整備などにも面倒を見た。